

## デジタルアーカイブ・コーディネータ試験

## ◆メタデータ記入用紙

## 受験者氏名



長滝白山神社（岐阜県） 六日祭「延年の舞」演目：田歌（おた）

資料コード	Circd07-0001
原資料ファイル	Circd0356-0084.jpg
地域・場所	岐阜県
内容分類	伝統芸能
年代・年	鎌倉時代～室町時代
分類コード	伝統文化 0001（踊り）
表題名称	長滝白山神社 六日祭「延年の舞」
表題名称 NO.	0001
提示資料名	田歌（おた）
提示資料 NO.	0001
利用分野	地域資料 民俗芸能 学校教育 生涯学習 観光
所蔵場所	岐阜女子大学文化情報研究センター
登録日	2007/06/21
登録者	加藤真由美
著作権	特定非営利活動法人地域資料情報化コンソーシアム
撮影日	2002/01/06
索引語	伝統芸能 踊り 舞 能 祭 国指定重要無形文化財 民俗芸能 長滝白山神社 六日祭 延年の舞 延年 田歌 白鳥町 長瀧の延年 二大延年
説明	<p>毎年1月6日に岐阜県長瀧白山神社六日祭にて奉納される「延年の舞」演目：田歌（おた）。「延年」とは、本来平安時代貴族社会において「齢を延ばす」という意味から転じ「娯楽する」「歌舞管弦の催し、遊宴芸能」を意味していたが、貴族社会の衰退・寺院勢力の発展により大寺院での法会（仏教行事）後の僧侶をねぎらうため若い僧や稚児が催した遊宴歌舞伎の芸能をさすようになった。法令は決まった時に毎年行われたため恒例化し、現在のように年中行事になっていった。「長瀧の延年」の歴史はさだかではないが、社記に弘安2年（1279）に神前で能を奉納したという記述がみられることから、すでに鎌倉時代には催されていたと考えられる。また江戸時代のある時期に絶えてしまった演目もいくつかあることも明らかになっている。かつて全国の寺社で催されてきた延年もその後鎌倉から室町時代にかけて寺院社会で盛んに行われ始めた猿楽の能が発展するとともに徐々に衰え、現在全国でわずかに数ヶ所が残るのみである。その中で古い延年の形を今に伝えるのは「長瀧の延年」と岩手県平泉町毛越寺二十日夜祭「延年の舞」の2つだけである。ともに国の重要無形民俗文化財に指定されている。</p>